

## ●農学部生物資源開発学科（高一種免（農業））

### ①教員養成に対する理念

生物資源開発学科は、理科免許状と農業免許状のコースを設け、学士プログラムの中に両免許の授業科目を配置していることを教職課程履修規程に定め、この履修モデルを体系的に学習することにより理科・農業の教員を養成する。

#### ■高一種免（農業）

本学科は多様な生物の存在を理解し、自然環境に配慮した資源の利用開発を通じ、農業、健康、食料、資源、環境の諸問題解決に資する人材を育成することを使命としている。そのため、農学・生命科学領域の生物科学を講義体系の柱として、生物を多面的に理解し、その過程において論理的に考える力、多様で正確な情報を収集し分析できる力、問題解決能力、生徒に適切かつ明確に説明できる力などの総合力を養う。

基礎教育においては生物学系・化学系の実験と講義を通じて、多様な自然現象を論理的に思考する能力を涵養する。また、農場における実習を通じて講義科目においては学習が困難な農業・生物圏の現場について理解する。これらを通じて「食」や「農」が直面する諸問題の解決に必要な知識と人間性を身に着けさせる。

上述の学科の性格・目的から、「広範かつ強固な基礎力を基盤とした専門的知識を備え、時代に適応した課題解決能力を持った教員養成」を理念とし、この理念を実現するための教員養成の構想として、様式第8号ウに各年次における到達目標を明示し、履修カルテにより到達目標の達成度を確認する。

以上の理念・構想から「基礎力に裏打ちされた農学的知識を備え、農学分野の根幹から課題を発見・解決できる能力を有した教員」を生物資源開発学科の目指す農業教員像とする。

### ②教職課程の設置趣旨

#### ■高一種免（農業）

近年の日本の高校農業教育では生徒が多様化し、農業の担い手育成のみにとどまらない、幅広い領域の教育が求められている。本学科では、従来の農学が主に扱ってきた食料生産に加えて、資源管理および環境保全の視点から農業の大切さを伝えるとともに、自然の恵みを持続的に活用可能な社会づくりに貢献できる人材の育成を目指している。農林水産省が生物多様性保全を重視した農林水産業を強力に推進するための指針として「農林水産省生物多様性戦略」を策定したことから、生物多様性に配慮した生物資源の探索や開発、農業生態系の管理と生産体系の構築が急務である。

このような課題に対して、教養科目や、本学科の特色である多種多様な動物、植物を扱う複数の専門基礎・コア科目の学修を通じて、農業生態系から自然生態系に至る生物とそれを取り巻く自然環境の幅広い知識を修得する。また、「里山学」「農業と生物多様性管理」「生物資源保全学（一）（二）」等の専門科目を通じて、自然環境と人の生活環境および社会環境に関する幅広い教養的知識を学ぶとともに、生物多様性や生態系に配慮した土地利用法、農業基盤に関する管理技術、マネジメント手法などの応用的な専門知識を習得する。さらに、「薬用資源学」「植物育種学」等を通じて、野生生物を含む有用生物の遺伝子資源の開発と農業における新たな生産体系の構築を目指した新領域を開拓するための理論と知識基盤を学ぶ。同時に、従来の食料生産における基礎的知識・技術基盤を、「農学原論」「農業実習（一）（二）」で習得するとともに、「土壌学」「植物育成管理学」等を通じて土壌の性質と肥料との関係、施肥法、植物の育成管理に関する基礎的知識を学ぶ。そして、総合科目の「分野別演習」を通じて、習得した知識や技術を他者と協力して実際の課題解決に活用するための方法を学ぶ。これらの過程を通じて、観察力や高い倫理観、論理的思考能力を涵養する。また、高度な専門的知識と技術を持ち、広い視野を備え他者と協力して積極的に行動する能力を養う教育課程となっており、これらの課程を修めることによって、高校「農業」教員の養成が可能であるといえる。

以上のことから、本学科の学修が高等学校「農業」の教育目標と合致するため、高校「農業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。